



国立東南部自治会 会長
林 俊雄

皆様には、大変お暑い中、本日の自治会創設 50 周年記念式典・祝賀会に御出席いただき、ありがとうございます。特に公私共にご多用の中、国立市長佐藤一夫様を始め、来賓の皆様方にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。全自治会員を代表して厚く御礼申し上げます。

私たちの「国立東南部自治会」は、昭和 41 年（1966 年）に、前身の「国立東南部街灯会」の名称を替えて、創設されました。昭和 39 年（1964 年）に開催された東京オリンピックの 2 年後の事です。

その後、近隣地区の皆様、そして国立市を始め、多くの方々にも支えられ、今月で満 50 年となりました。

本日の会は、50 周年をお祝いすると同時に、50 年を大きな節目として、先人たちが私たちに残してくれた教えに学び、自治会の役割、必要性を再認識する再出発の機会になればと思っています。

本自治会の 50 年のあゆみについては、今年 10 月末に刊行予定の「50 周年記念誌」に掲載いたしますので、本日の式典では「国立東南部街灯会」発足までの経緯を中心に私が見た当時のまちの様子を交えながらお話したいと思います。

私が現在住んでいる場所に引っ越してきたのは、今から 67 年前の昭和 24 年 4 月です。小学校 2 年生でした。

当時の私の家の住所は「東京都北多摩郡谷保村字国立 121 - 1 番地」でした。当時は一橋大学の南側一帯は松と雑木が密集した山林でした。その山林の一部が今でも一橋大学の構内に残っています。特に兼松講堂の裏側は松の木が大木となり、密集した雑木林となって残っています。大学どおりの歩道を歩きながらも、その一部を見ることができます。

当時は、国立駅までの間に、民家が僅かしかありませんでした。小学校は谷保小学校（現在の国立第一小学校）しかありませんでした。昭和 25 年には、第二小学校ができましたが、中学校も一つしかなく、



国立高校前の植樹予定地

足りなくて、小学生と中学生が、午前と午後を交替しながら授業が行われました。昭和 27 年に今の三小のところに二小の分校ができ、やっと近くの小学校に通えるようになったのは、私が小学校 5 年生の時でした。

昭和 26 年には「谷保村」が「国立町」となりました。それでも私たちが住む周辺の環境は全く変わりませんでした。

大学通りは砂利道で、たまに車が通ると、砂埃が舞い、大雨が降ると緑地帯も歩道も水没してしまうのです。特に国立高校の前は、くぼみになっていたようで、高校生の腰の辺まで水が溜まり、放課後、高校生がイカダを浮かべて遊んでいました。側道もぬかるみになって、雨靴を履いても歩けないような状態でした。

そのような環境の中で、特に住民が困ったことは街灯が無いことでした。民家が少なく雑木林に囲まれたこの地域は、夜になると「漆黒の闇」となり、歩くには懐中電灯が必要でした。雨が降ったら特に危険な状態です。このような環境を改善し、住民の安全を守るために東南部地区の有志の皆さんが発起人となって発足したのが、「国立東南部街灯会」だったのです。町にお金が無いので、住民たちがお金を出し合い、ヒノキの電柱を一本一本立てていき、地域に夜の明かりをともしていきました。

そして、今から 50 年前の 6 月に街灯会の目的を維持しながらも、更に住民の親睦、福祉の増進等のために、「街灯会」を「自治会」へと名称変更しました。その初代会長は街灯会創設の発起人代表であった小澤惣語さんでした。

小澤さんのご自宅は、国立高校正門の横に隣接していました。今は新しいマンションになっているところですが、小澤さんの奥さんの花子さんは、本自治会の 2 代目の会長さんでしたが、「お嫁に来たころは、こんなところに住めるのかしら」と思われたそうです。

ところが今はどうでしょう。「こんなところに住んで見たい」と思われるような街になりました。

「国立東南部自治会」が創設された翌年の昭和 42 年（1967 年）に、「国立町」は「国立市」となりました。

その後、街灯も、住民が独自に維持管理していくのは大変だということで、第 4 代会長の田和艶子さんが大変な苦勞をされて国立市に維持管理してもらうことになりました。

しかし、街灯会存立の精神は現在の自治会が継承し、活動の中に生かされていると私は思います。その精神は「住民相互の助け合い」です。福祉、防災、防火、防犯、環境整備などの活動の根底には「助け合い」の精神が流れています。それらの活動を円滑にするために、日頃より住民同士の親睦を深めながら、他の地域の皆様とも連携し諸活動を行っています。

東日本大震災以降、本自治会でも「防災」という事に力を入れ、まず、会則を変更し、「防災部」を作りました。手始めに、国立市が推進している災害時の「要援護者支援体制」づくりに取り組み、当面、災害時の「安否確認」の組織をつくりました。昨年、最初の訓練を行い「国立市報」にもその様子が紹介されました。私は今、心配されている首都直下地震が起きた際、必ず役立つと確信しています。

最近、自治会や町内会などの加入者が減少し、休会状態の会も出てきているという話を聞くことがありますが、本自治会も一時、会員が減少したことがあります。ここ数年は、加入世帯は約 240 前後で推移しています。今年度は増加し 251 世帯となりました。これは大変喜ばしいことです。

「創設 50 周年」を記念して植樹する桜の木が一日と成長していく姿を見ながら、私たちが温かみのある自治会づくりを目指して進んでいきたいと思います。

本日ご臨席のご来賓の皆様と会員の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念し、式辞といたします。

昔のお話を聞きました

渡辺 ヤス子さん [1 地区在住]

私が現在住んでいる家に嫁いで来たのは、昭和 22 年でした。夫は学徒出陣で戦地に行ったが無事復員したばかりの 27 歳、私は 22 歳でした。現在の家は当時大工だった義父が昭和 17 年に建てたものです。

私が嫁いできた頃は、ほとんど民家はありませんでした。その後 2 件、3 軒と家が建っていきました。その頃の飲料水は井戸を掘って汲み上げた地下水でした。渇水期になると井戸水が出なくなり、さらに深く掘り下げるという工事を行う間、近所同士で「もらい水」をしなければなりません。近所といっても家は離れていましたが、私の家には井戸が 2 ヲ所あったので、渇水期には近所の人たちが水を汲みにきました。

民家や街灯の明かりも無く、夜になると真っ暗となり不自由をしましたが、昭和 20 年代の終わりの頃に、私の家の北側にある通り（現在の学園通り）に街灯が 2 灯点き、明るくなったときの喜びを今でも忘れることができません。

私たちが住んでいるこの地域は、私が住み始めてから 70 年間、大きな事件や事故も起きない安全で平和な所です。

一時、大学通り周辺を 3 階以上の建物は建てられない「一種住専地域」にするか否かで、意見が分かれたことがありましたが、話し合いで無事解決しました。争いごとの無いとても良いところ です。

また、自治会の皆さんにいつもやさしくして頂き、90 歳を越えても元気に生活できることを感謝しています。

上保 宏子さん [5 地区在住]

私が東京杉並から引っ越してきたのは、戦後間もない頃でした。私は中学生でしたが、地元の国立中学校には行かず、引越し前に住んでいた杉並の高井戸中学校に電車通学をしました。

大学通りには街灯も無く、帰りが遅くなったり、日が暮れるのが早い時期には、母が毎日、国立駅まで迎えに来てくれました。

引っ越して来た頃、近所には渡辺さんの家しか無く、井戸水をもらいに行ったり、五右衛門風呂に入れていただいたりしました。その後、家は増えていきましたが、それでも家の数は少なく、お互いに助け合いながら生活していました。

結婚しても現在地を離れず生活していましたが、私が 40 歳を過ぎた頃、母より「そろそろ自治会のお手伝いをしてみたら」と言われ、私は役員となり、会計を担当することになりました。自治会は「街灯会」より引き継がれた街灯を維持管理するため、国立市からの補助金と自治会費より街灯の新設費用、修理費、電気料金等を払い続けていました。

6 月 19 日に行われた「自治会創設 50 周年式典・祝賀会」に出席させて頂き、式辞や祝辞を聞きながら、昔のことを想いだし、懐かしさとうれしさが蘇えり、有意義な時を過ごさせて頂きました。



開業時の旧国立駅舎
所蔵／くにたち郷土文化館

木村 千恵子さん [16 地区在住]

私の父、志方篤が現在ある国立の土地を購入して、戦時中には材料が無いなどで、4年ほどかけて家を建てたと聞いています。当時父は裁判官でした。家が完成したのが昭和20年、私が生まれたのが昭和23年でした。その頃、近所には数件の家しか無く、隣の真田さんは牛を飼っていて、母も時々牛乳を買いに行ったそうです。私の家にも2羽の鶏がいました。母が産みだした卵を近所の病人や産後の方に配っていたと、会長の林さんから聞きました。

私は音大付属小学校に入学しました。音小は現在ガーデン国立がある大学通りにありました。学校に行くには大学通りを横断しなければなりませんが、雨が降ると大学通りは川となってしまう、長靴も役立たず、長靴を脱いで大学通りを渡り通学しました。

小学生の私に両親から与えられた仕事の一つは、「街灯会」が維持管理している街灯の点灯と消灯することでした。陽が落ちて暗くなると、私の家の近くにある街灯のスイッチを入れ、点灯させ、朝起きると必ず消灯するという仕事を毎日欠かさず続けました。父は「この街灯は鈴源さんたちと協力して立てたものだ」といっていました。私は大人になって一時国立を離れたことがありますが、すぐに国立に戻ってきて、現在は昔からある土地で「森の広場」を経営しています。

鈴木 重雄さん [18 地区在住]

私が東京神田より現在地に引っ越してきたのは、昭和17年、私が小学校（当時は国民学校）の2年生の時です。付近は松林、雑木林だけで、家は小黑さん宅の一軒しかありませんでした。

昭和20年に私の家の南側に府立国立中学校（現・都立国立高等学校）が建てられました。

雨が降ると大学通りは排水設備が無いので、川・池状態となり、国立高校正門より南側の緑地帯（大学通りを挟んで2ヵ所）に大きな穴を掘って排水をしていましたが、大雨になると全く効果がありませんでした。また、一橋大学より南側には民家も少なく、街頭は一灯も無い状態でしたので、夜は恐くて歩けませんでした。

昭和26年に谷保村が国立町になり、国立を文教地区にする運動が起きました。その頃、現在の東南部自治会がある地域に街灯を立てようという運動も起きました。発起人は小澤惣語さん、丸山忠義さん、小黑光雄さんと私の父、鈴木源之助の4人であると記憶しています。

国立町と交渉して、ヒノキの電柱を立て電球をつけてもらうかわりに、電気料金や修理費などの管理・維持費は住民組織の「街灯会」が支払うことになり、最初は大学通りに4～5灯が点けられました。その後、側道にも1つ、2つと点いていき、家の前の通りが明るくなった時の感激を今でも忘れることができません。



History

自治会街灯 市へ移管 —— 昭和 63 年～平成 6 年

昭和63年

昭和 63 年 「市よりの街灯補助金打切り」

(会計帳簿より)

昭和 62 年の市よりの街灯補助金 121,384 円を最後に、街灯料金及び工事補助金が打切られた。

昭和63年

我が自治会所有街灯 30ヵ所

(会報 19 号より)



昭和63年

市へ段階的に移管

(会報 22 号より)

昭和 63 年 5 月 22 日に国立高校視聴覚室で開かれた自治会総会で、「街灯を市に段階的に移管していく」ことが決定した。

会費だけで維持していくことが無理となったことが主たる理由である。

昭和63年

会費のみで街灯を維持

(会計帳簿より)

昭和 63 年度より市より補助金が打切られた後も、一部の街灯費を自治会が支払いを続けた。

▶ 昭和 63 年度	80,810 円
▶ 平成 元年度	18,500 円
▶ 平成 2 年度	9,900 円
▶ 平成 4 年度	4,000 円

平成6年

市への完全移管

(会報 37 号より)

平成 6 年度、田和会長と市との交渉の結果、自治会所有のすべての街灯が市に移管されることとなった。

(平成 5 年度以降、会計帳簿に街灯費の支出に関する記載なし)

火災警報器一括購入の取り組み——平成20年

平成 22 年 4 月 1 日から「すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化」されることが決定したことを機に、自治会会員より「一括購入すると経費も安く済むので、自治会で扱ってほしい」という要望があり、一括購入の取り組みを行なうこととなった。半年にわたる取り組みの骨子を本誌に残しておきます。

4月29日

● 自治会定期総会にて、
火災警報器一括購入の斡旋決定

5月22日

● 市役所防災課で、火災警報器に関する色々な資料を貰う

6月22日

● 役員会にて 2 社より説明を聞き、
「ホーチキ社」の警報器斡旋決定

8月19日

● 購入申込書作成。
会報 70 号発行、配布

8月31日

● 役員会・合同役員会を開き、
一括購入の要領を説明

9月20日

● 地区ごとにまとめた購入申込み
を締切る (365 個の注文)

9月22日

● 代理店「セリア」に
警報器 365 個を注文する

9月25日

● 「セリア」より警報器 365 個、
会長宅に届く (代金 1,149,750 円)

10月2日

● 警報器を地区ごとに仕分け
(副会長、総務、会計、広報。福祉が担当)

10月3日

● 4 箇所 (芦間、笹川、鈴木、星田宅) で
受け渡し、集金開始

10月12日

● 受け渡し、代金回収、全て終了



History

バス旅行 —— 平成年度実施分

50th
Anniversary



日 程	内 容 (場 所)	方 面
平成元年 11月 3日 (祝)	まかいの牧場 朝霧高原	静岡 (富士宮)
平成 2年 10月 23日 (火)	油壺 城ヶ島	三浦半島
平成 3年 10月 3日 (木)	彫刻の森美術館 湿生花園	箱根
平成 4年 10月 16日 (金)	ぶどう狩り ワイン工場	甲州 (勝沼)
平成 5年 10月 5日 (火)	富士山 富士五湖巡り	富士五湖
平成 6年 10月 13日 (木)	紅葉狩り 東照宮	日光
平成 7年 10月 12日 (木)	散策 美術館見学	清里 美しの森
平成 8年 10月 18日 (金)	リンゴ狩り ハルナグラス	上州 (伊香保)
平成 9年 6月 13日 (金)	さくらんぼ狩り 河口湖	甲州 (河口湖)
平成 10年 9月 18日 (金)	ぶどう狩り 恵林寺	甲州 (勝沼)
平成 12年 3月 29日 (水)	花摘み いちご狩り	房総 (館山)

日 程	内 容 (場 所)	方 面
平成 12年 10月 3日 (火)	栗拾い 富弘美術館	飯能 桐生
平成 14年 3月 19日 (火)	花摘み いちご狩り	房総 (館山)
平成 15年 7月 10日 (木)	桃狩り 花の都公園	甲州 (山中湖)
平成 17年 6月 17日 (金)	さくらんぼ狩り 影絵の森	甲州 (昇仙峡)
平成 19年 3月 15日 (木)	いちご狩り 花摘み	南房総
平成 19年 11月 22日 (木)	いちご狩り 富岡製糸場	上信越 (小諸)
平成 20年 11月 16日 (日)	葛西臨海水族園 東京タワー	都内
平成 21年 11月 8日 (日)	小江戸見学 サイボクハム	川越 日高
平成 24年 3月 4日 (日)	八景島シーパラダイス 中華街	横浜
平成 25年 11月 10日 (日)	オルゴールの森 忍野八海	富士五湖 周辺

見学会・講習会・勉強会

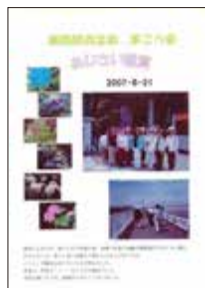


種 別	日 程	場 所	備 考
見学会	平成 9 年 11 月 21 日 (金)	市ごみ施設 3 ヲ所 特別養護老人ホーム (くにたち苑) 見学	市のバス利用 (わくわく塾)
講習会	平成 10 年 10 月 23 日 (金)	救命講習会 (万一の時、救命の手助けをするコース)	東福祉館 (集会室)
講習会	平成 11 年 9 月 29 日 (水)	救命講習会 (万一の時、救命の手助けをするコース)	東福祉館 (集会室)
勉強会	平成 11 年 11 月 21 日 (日)	介護保険勉強会 (介護保険制度改正)	東福祉館 (集会室)
講習会	平成 14 年 7 月 22 日 (月)	オリジナル買物袋製作講習会	くにたち福祉館 (中会議室)
講習会	平成 16 年 7 月 21 日 (水)	オリジナルバック製作講習会	くにたち福祉館 (中会議室)
見学会	平成 16 年 10 月 26 日 (火)	グリーンセンター等施設見学 府中郷土の森散策等	市のバス利用 (わくわく塾)
講習会	平成 18 年 8 月 4 日 (金)	オリジナルバック製作講習会	くにたち福祉館 (中会議室)
見学会	平成 22 年 11 月 18 日 (木)	日出町ゴミ最終処分場見学 「つるつるの湯」等	市のバス利用 (わくわく塾)
見学会	平成 24 年 10 月 27 日 (土)	南極・北極科学館 (立川) 立川防災館見学	電車・ モノレール利用
見学会	平成 26 年 10 月 30 日 (木)	クリーンセンター等 サントリービール武蔵野工場見学	市のバス利用 (わくわく塾)

History

歩こう会・親睦会——平成16年度より実施

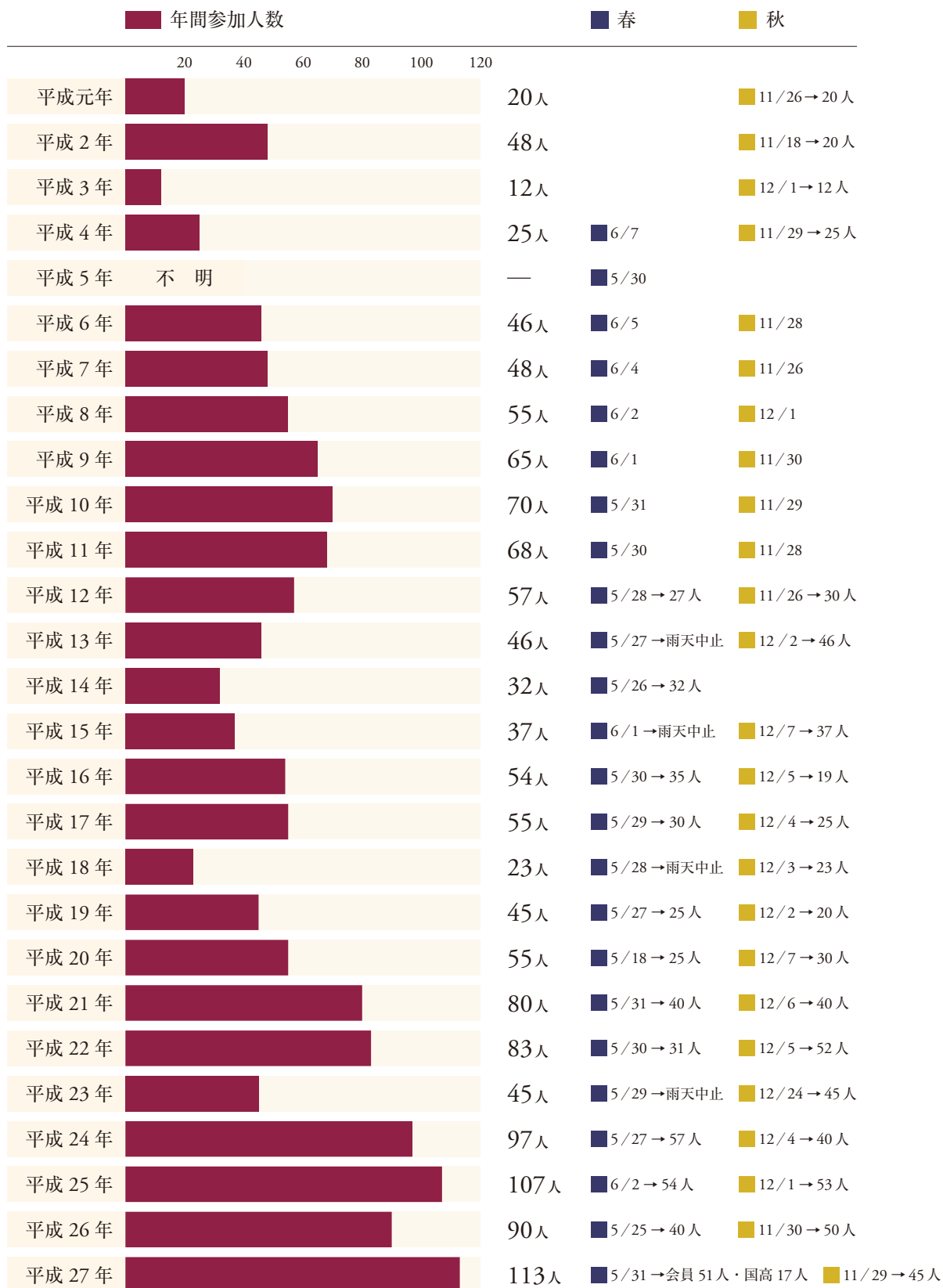
50th
Anniversary



日 程	目 的 地	行 程
平成16年11月23日(火)	国立市内巡り(Ⅰ)	国高→谷保天満宮→下水処理場→多摩川堤防→ヤクルト研究所→国高
平成17年2月20日(日)	国立市内巡り(Ⅱ)	往路(Ⅰ)に同じ 復路 ヤクルト研究所→谷保天満宮(梅林でお茶とお菓子)
平成17年3月31日(木)	殿ヶ谷戸庭園	国高→黒がね公園→国分寺(万葉植物園)→お鷹の道→殿ヶ谷戸庭園
平成17年11月23日(水)	国立市内巡り(Ⅲ)	国高→谷保天満宮→城山公園→古民家→くにたち郷土文化館(往復)
平成18年3月6日(月)	高幡不動尊	国高→南プラザ→石田大橋→万願寺→高幡不動
平成18年10月30日(月)	北多摩二号 水再生センター	国高→谷保天満宮→城山公園→水再生センター見学(往復)
平成19年6月21日(木)	高幡不動尊内 あじさい園(Ⅰ)	国高→南プラザ→石田大橋→万願寺→高幡不動
平成19年10月22日(月)	矢川緑地保全地域	国高→矢川団地→矢川緑地→矢川いこいの広場→桜通り→国高
平成20年5月23日(金)	府中郷土の森博物館	谷保→(電車)→分倍河原→府中郷土の森博物館(往復)
平成21年6月14日(日)	根川緑道(立川)	国高→古民家→ママ下湧水→貝殻坂→根川緑道→清化園跡→バスで国高
平成22年6月21日(月)	高幡不動尊内 あじさい園(Ⅱ)	国高→南プラザ→石田大橋→万願寺→高幡不動
平成23年6月5日(日)	大國魂神社(府中)	国高→谷保天満宮→段丘崖線(ハケ下)→分倍河原→大國魂神社
平成24年6月4日(月)	程久保川遊歩道	国高→南プラザ→多摩川→四谷大橋→程久保川遊歩道→高幡不動駅
平成26年5月29日(木)	武蔵国分寺公園	国高→黒がね公園→国分寺→お鷹の道→真姿の池→武蔵国分寺公園(往復)
平成27年10月17日(土)	城山さとの家 (国立市谷保)	親睦会(いも煮会) 徒歩またはバス利用



History

ゴミゼロ（一斉清掃）——平成元年～平成27年
各年度活動報告書より



History

防災活動

自治会主催 防災・防火講習会

日 程	内 容	講 師	会 場
平成 7 年 7月 23日(日)	防災講習会（ビデオ・講話） 「地震災害に備えて」 （地域で考えよう防災対策）	立川消防署 担当者	国立高校 （大会議室）
平成 8 年 7月 21日(日)	防災講習会（ビデオ・講話） 「非常時の助け合い」 （阪神・淡路大震災に学ぶ）	立川消防署 担当者	国立高校 （大会議室）
平成 12 年 11月 18日(土)	防災・防火講習会（実習） 「いざという時、あなたはどのようにする」 （通報訓練、応急手当等）	立川消防署 担当者	東福祉館
平成 23 年 7月 2日(土)	防災講座（ビデオ・講話） 「わがまち、わが家の防災対策」 （国立市わくわく塾講座）	国立市総務部 加藤防災課長	くにたち福祉会館 （中集会室）
平成 23 年 11月 12日(土)	防災講演会（講演） 「立川断層について考える」 （大地震に備えてできる対策は）	森勢郁生氏 （市防災課）	国立高校 （大会議室）
	料理実習「火も水も不自由な中、 簡単にできる料理の技」 （国高の生徒と共に）	吉村多恵子氏 （20 地区）	

自治会として参加した防災訓練 —— ※印は本自治会主催

日 程	会 場
平成 22 年 8月 29日(日)	市総合防災訓練（国立七小）
平成 23 年 8月 28日(日)	市総合防災訓練（国立三小）
平成 24 年 8月 26日(日)	市総合防災訓練（国立三小）
平成 25 年 8月 25日(日)	東地区防災訓練（国立三小）「避難所に集まろう」
平成 26 年 8月 31日(日)	市総合防災訓練（谷保第三公園）
平成 27 年 2月 15日(日)	東地区防災訓練（国立三小）「冬の避難所に集まろう」
平成 27 年 8月 30日(日)	市総合防災訓練（国立三小） ※第 1 回安否確認訓練（国立高校前）
平成 28 年 8月 28日(日)	※第 2 回安否確認訓練（国立高校前）



History

「災害時の助け合い」と防災部設置

50th
Anniversary

平成24年

● 防災指導委員の
増員呼びかけ

役員会において、今後予想される「首都直下地震」等の「災害時の助け合い」に関する取り組みについての検討を始めたが、「いざ!!」という時に中心となる防災指導委員が4名では無理があり、大幅増員することが先決であることになった。そこで、平成24年6月30日に合同役員会を開き、地区委員に対して、立候補・推薦を強く呼びかけた。その結果、平成25年度末までに7名となり、「防災部設置」の見通しも出てきた。

平成27年

● 災害時要援護者・支援者の
登録呼びかけ

総会の承認を受けて、「災害時の助け合いの仕組み」に対する取り組みが防災部を中心に開始された。平成27年5月27日(水)と6月28日(日)に説明会が行われ、仕組みの説明と要援護者・支援者登録の呼びかけが行われた。(平成28年8月末現在、要援護者9名、支援者27名が登録済み)



平成25・26年

● 「災害時の助け合いの仕組み」検討

増員された防災指導委員を中心に「助け合いの仕組み」についての検討が始まった。東京都や国立市の取組みや青柳一丁目支援協議会やお隣の環境改善促進会などの取組みを調査したり、「聞き取り」を行なったりした。

平成26年6月29日に行われた合同役員会において意見交換が行われ、「あまり無理をせず、出来る事から始めよう」ということになった。

平成27・28年

● 「安否確認訓練」の実施

防災部、支援者による「第一回安否確認訓練」が国立高校正門前に本部を置き、平成27年8月30日(日)に行われた。その時の様子は「市報(第1107号)」に写真と共に掲載された。

「第二回安否確認訓練」は平成28年8月28日(日)に行われ、会長、広報などの役員、防災部員、支援者30名が集まり、最後に国立高校前の緑地帯で写真撮影が行われた。



平成27年

● 「災害時の安否確認と避難誘導」と
防災部の設置

平成27年4月29日に行われた自治会総会において、災害時における取組みの具体化として、要援護者に対する「災害時における安否確認と避難誘導」に関する提案がなされ、満場一致で承認された。また、会則を改訂し「防災部」を設置することも承認された。

